

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：82609

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10375

研究課題名（和文）精神科病院における隔離拘束削減の取り組みに関する組織指導者の認識についての研究

研究課題名（英文）A study of organisational leaders' perceptions of efforts to reduce seclusion restraints in psychiatric hospitals.

研究代表者

新村 順子（NIIMURA, Junko）

公益財団法人東京都医学総合研究所・社会健康医学研究センター・主任研究員

研究者番号：90360700

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：文献検討と研究コアチームとのディスカッションにより、サービスユーザーに対する強制的なケアの削減に、ユーザーのトラウマを深く理解してケアを提供するトラウマインフォームドケア（TIC）が有効であることを確認した。また、海外の視察や先駆的实践者の招聘を通し、TICはリカバリーの視点を基盤に、サービスユーザーの参画を得ながら、スタッフ個人から組織管理者まで包括的に対象とすることが効果的であることを理解した。そして、サービスユーザーへの強制的なケアに関わる施設と地域のスタッフを対象にTICの教育プログラムを開発し効果評価を実施した。効果の継続には、組織管理者の研修への参加が影響していることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、当事者への強制的なケアに関わる精神科病院と地域スタッフを対象に、ユーザーのトラウマを深く理解してケアを提供する、トラウマインフォームドケアの教育プログラムを開発し効果評価を実施した。研修効果の維持には、組織指導者の研修への参加が影響していることが示唆され、サービスユーザーに対する強制的なケアの削減には、組織管理者を含む包括的な研修実施体制を構築する重要性が確認された。

研究成果の概要（英文）：A literature review and discussions with the research core team identified the effectiveness of trauma-informed care (TIC), which involves profoundly understanding the user's trauma and providing care to reduce coercive care for service user. In addition, through international visits and invitations to pioneering practitioners, we have understood that TIC can be effectively implemented comprehensively, from individual staff to organizational managers, building on the philosophy of recovery and service user involvement. We developed and effectively evaluated the TIC education program for institutional and community staff involved in mandatory care for service users. The results suggested that the impact of the training was influenced by the participation of the organizational leadership in the movement, which was a critical factor in the continued effectiveness of the training.

研究分野：地域精神保健

キーワード：trauma-informed care coercive practice mental health

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

北米を中心とした 1990 年代の Consumer Movement 以降、メンタルヘルス領域では、従来の医療専門職を中心としたパターナリスティックなケアモデルから、リカバリーの理念を基盤にし、当事者を中心としたケアモデルへの変革が求められた。この流れを受け、北米、欧州を中心にサービスユーザーに対する強制的なケア(非同意入院、病棟における隔離拘束など)の削減を意図した介入プログラムやアプローチが開発されている。代表的なアプローチとして、サービスユーザーが被虐待体験をはじめとした様々なトラウマを経験していることを前提に、対象者のトラウマに配慮し、再トラウマ体験の予防を重視したトラウマインフォームドケアが挙げられる(Azeem 2011 J Child Adolesc Psychiatr Nurs)。

トラウマインフォームドケアの既存研究では、組織指導者が、トラウマインフォームドケアの必要性やプログラム導入の重要性についてよく認識し、リーダーの見解をスタッフに明確に示したのち、介入を始めることが推奨されている(Bryson 2017 Int J Ment Health Sys)。また、個々のスタッフが持つトラウマインフォームドケアについての態度や技術は、その組織の文化に強く影響を受けており(Glisson 2015 Annu Rev Public Health)、プログラムには、個人だけでなく、組織文化に対する働きかけが、介入戦略に含まれることが重要である(Hamrin 2009 Issues in Mental Health Nursing)。

一方、わが国のメンタルヘルス領域においては、例えば 2015 年の日本精神科救急学会による精神科救急ガイドラインにおいて、隔離拘束を始めとした強制的なケアの削減に向け、上述したトラウマインフォームドケアや、当事者中心のケアモデル・当事者参画の重要性が記されている(日本精神科救急学会 2015)。しかし、2017 年度の厚生労働省 630 調査の結果では、身体拘束、隔離患者数ともに 1 万人を超え、この 10 年継続して増加していることが報告されており(厚生労働省 2017 年精神保健福祉資料)。強制的なケアの削減に向けては、トラウマインフォームドケアなどの実行に向けてさらなる取り組みが求められているところである。

### 2. 研究の目的

本研究では、我が国のメンタルヘルス領域にて、強制的なケアに関わっている組織のスタッフや管理者らが、強制的なケアの削減に向けた代表的なアプローチであるトラウマインフォームドケアの導入や実施に対して、どのような認識や態度を持っているのか、主に研修プログラムの実施とその効果評価を通して明らかにする。また、強制的なケアの削減の取り組みに対する、促進/阻害要因を、組織文化の変革と当事者の視点を含めて考察し、我が国の強制的なケアの削減の推進に寄与することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 当事者を含めた研究コアチームの策定: 研究代表者、研究協力者、当事者(以下 User Researcher とする)から成る研究コアチームを立ち上げ、研究の方向性や進行について意見交換をしながら研究を進める体制を構築する。

(2) 文献レビュー、海外視察、先駆的实践者の招聘: 国内外の強制的なケアの削減プログラム、組織変革、リーダーシップについての文献レビューを実施。具体的な介入の実施状況や内容、導入期、継続期における戦略や課題などについて、概念整理や定義を行う。また、トラウマインフォームドケアを先駆的に実施している欧州への視察および先駆的实践者の招聘を実施する。

(3) 調査の実施

上記、(1)(2)を通して、メンタルヘルス領域のスタッフおよび組織管理者を対象としたトラウマインフォームドケア研修プログラムを検討、立案する。

研修プログラムを実施し、トラウマインフォームドケアに対する認識や態度を測定する尺度等を用いて、研修の効果の測定および検証を実施し、効果に影響を及ぼす要因を検討する。

#### 4. 研究成果

本研究では、まず、文献検討と研究コアチームとのディスカッションにより、サービスユーザーに対する強制的なケアの削減に、ユーザーのトラウマを深く理解してケアを提供するトラウマインフォームドケアが有効であることを確認した。また、海外の視察（第5回 European Conference on International Care and Assertive Outreachの参加）やUKのNHSにおけるリカバリー支援の先駆的实践者 Prof. Geff Shepherdの招聘を通し、トラウマインフォームドケアはリカバリーの視点を基盤に、サービスユーザーの参画を得ながら、スタッフ個人から組織管理者まで包括的に対象とすることが効果的であることへの理解を深めた。

さらに、2021年と2022年に、サービスユーザーへの強制的なケアに関わる施設と地域のスタッフを対象に、2日間計5時間のTICの教育プログラムを開発し、その効果評価を実施した。研修受講者は計59名だった。トラウマインフォームドケアに対する態度を測定する尺度(Attitude Related to Trauma-Informed Care: ARTIC)を用いて、研修の効果を、研修を受ける前、受けた直後、受講後6か月の時点で測定した。研修参加者はトラウマインフォームドケアに対する態度が有意に上昇しており、効果の継続には、組織管理者の研修への参加が影響していることが示唆された(図1)。また、研修後6か月の時点で、所属している職場で、何らかのTICの実践をしたと回答した人は、35人(約60%)であった。具体的な実施内容の内訳は(複数回答)、トラウマインフォームドケアの理解を基に、ケースへの理解や対応方法を変えた(例:問題行動に対して、なぜ起こったのか過去のトラウマを踏まえて解釈する、指導や責めることはしない等計31件)、トラウマインフォームドケアの理解を基に職場の物理的環境や人員配置を改善した(例:面接室の家具の配置や、ケース担当者の性別を考慮する等計5件)、関係機関にケース理解が進むように働きかけた(例:保育園に対してケースの問題行動の意味や背景を説明した等計2件)、同僚への理解や態度を変えた(例:職務中に攻撃的な言動を受けた同僚に対して必ず個別に話を聴くようにした等計7件)であった。現在、上記の結果をまとめ国際誌に投稿中である(under review)。

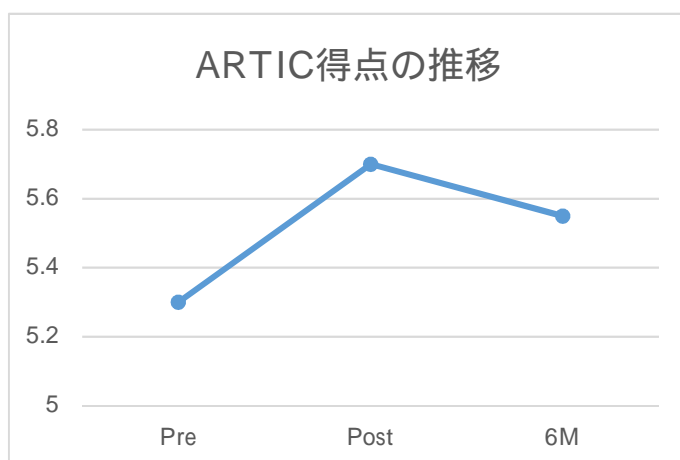


図1 得点が高いほど、トラウマインフォームドケアに対する態度が肯定的であることを示す

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Niimura J, Nakanishi M, Okumura Y, Kawano M, Nishida A	4. 巻 28
2. 論文標題 Effectiveness of 1 day trauma informed care training programme on attitudes in psychiatric hospitals: A pre post study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Ment Health Nurs	6. 最初と最後の頁 980 - 988
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/inm.12603	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新村順子	4. 巻 46
2. 論文標題 トラウマ・インフォームドケア教育プログラムの研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科看護	6. 最初と最後の頁 30 - 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター心の健康ユニット <a href="https://mentalhealth-unit.jp/">https://mentalhealth-unit.jp/</a>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------